

タイトル **住み継がれていく思い出のある家**



おじいちゃんが庭の木で建てた家
残したい大切な住まい

住み継がれていく築60年の家

◆古材を再利用する
昔、庭に屋敷林がありました。木々は寒い北風を遮り、暑さを防いでくれ薪でお湯も沸かしてくれました。そのケヤキの木を使いおじいちゃんが家を建てました。60年という長い間家族を守り、大切な思い出を残してくれました。「おじいちゃんが建てた大切な家」だからこそ直して暮らし続けることにしました。親から子どもへ、子供からも孫へと住み継がれていきます。

寒くて不便を感じる住まい

リフォーム前は土壁で断熱材がなく、冬は床からの湿気や冷気で毎年寒くてジメジメしていました。昔ながらの土間づくりで段差があり生活に不便を感じていました。築60年という事で、家も老朽化し耐震面でも不安がありました。

before



自分たちも参加する家づくり

◆家族みんなで作った思い出の塗り壁
家の解体作業を自分たちの手でやりました。お父さんが古い家の壁を壊し、屋根の瓦を降ろしたり、ひとつずつ丁寧に解体していききました。家族みんなで家の中の壁を塗り直しました。子供たちもお父さんの姿を見て、見よう見真似で手伝いました。また1つ思い出が増えました



将来は屋敷林の木を燃料に

◆木材を再利用する
冬の暖房は薪ストーブ一台で家中あたたかい。ご主人の念願が叶った薪ストーブ。燃料は家を解体したり、作った時に出土した廃材を使用しています。将来的には庭に木を植え雑木林を取り戻し、その木を燃料にしたいと考えています。雑木林を作るために子供たちは、シラカシのどんぐりを植え育てています。

優れた耐震性能を確保

◆安心して暮らすことのできる住まい
耐震診断を行った結果、壁は必要な量の1/5、基礎は1/3でした。耐力壁、基礎を増やして必要な部分を補強し耐震性能を確保しました。万が一、強い地震が来ても、安心して暮らすことのできる住まいに生まれ変わりました。



住み継がれていく思い出のある家

Organic Studio
オーガニック・スタジオ株式会社



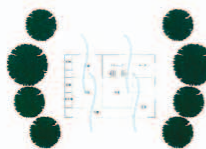
子供たちが受け継ぐ暮らし

家の中や外で、走り回って遊ぶ子供たち。間仕切りがない広々とした空間が広がります。家の前には畑があり野菜を育て自給自足の生活をしています。おじいちゃん、おばあちゃんの暮らしを自然と子供たちが引き継いでくれると思います。

1. 畑仕事で水菜収穫のお手伝い。畑で沢山の野菜を育てています。
2. 2階は子供部屋。格子越しにどこに居ても気配が感じられます。
3. 断熱改修の結果、薪ストーブ一台で家全体を暖められます。
4. 以前は急な階段でしたが、ゆっったりと安全に登れるようになりました。
5. 家の端にあったキッチンを中心に、家族の団場の場所に。

昔の住まいづくりを今に生かす

60年前に屋敷林がありました



屋敷林が日射しを遮り、住環境は夏涼しく快適でした。冬は寒く火鉢やこたつなどで暖を取っていました。

増改築を繰り返していきうちに



必要に応じて増改築を繰り返していきうちに、風が通らない家になり、夏暑く冬は寒い家になってしまいました。

夏涼しく、冬あたたかな家



風を止めていた部分を解体し、夏の涼しさを取り戻し、基礎、壁、屋根を断熱材で包み冬暖かくなりました。将来は屋敷林が広がり、夏は本庭でより涼しく防風林で暖かくなります。

講評

60年前におじいちゃんが建てた家をその思い出と共に大切に住み継いでいくことで、文字通り「住まいの長寿命化による環境への貢献」という理念を体現化している作品だと感じる。更に、「住まい手自らが施工に参加することで、維持管理への意識を醸成」している点や「風の通り道を計算した開口設計」「屋敷林を設けることで将来の快適さを創出する」などのソフト面における環境要素も工夫されている点を高く評価した。
(審査委員：宮沢 俊哉)

データ

- 所在地 ■ 杉戸町
- 構造・階数 ■ 木造・2階
- 敷地面積 ■ 616.73㎡
- 延床面積 ■ 215.37㎡
- 建築面積 ■ 165.09㎡
- 完成年月 ■ 平成21年11月
- 総工事費 ■ 約1,850万円 (リフォーム)
- 居住者構成 ■ 15歳未満:3人
15歳以上65歳未満:2人
65歳以上:2人
- 設計者 ■ オーガニック・スタジオ株式会社
代表取締役 三牧 省吾
- 施工者 ■ オーガニック・スタジオ株式会社
城本 恵利子

住まい手から一言

冬、床下からの冷気がとても寒くて眠れませんでした。住みづらい家から別の土地に移ることも考えたのですが、祖父が建てたこの家で暮らしていきたいと思い、リフォームをすることにしました。家族で解体をした時に屋根組みに曲がった大きな丸太が出てきて、この土地の歴史を感じました。あまりにも立派な丸太の

ため、梁を見せることにしました。1階から屋根裏まで空気が流れるようシーリングファンで空気を循環させ、天窓から熱気を出し、夏涼しく、冬暖かい家になりました。昨年の冬は薪ストーブが大活躍。薪ストーブの前はみんながくつろぐ場所になりました。祖父が建てた大切な家をリフォームすることによってよかったです。